

意見具申のイメージ（案）

第1章 現状と課題

第1 ひきこもり、ニート、非行等の社会的自立に困難を有する若者を
取り巻く現状

1 若者を取り巻く状況

- 現在の若者の全体像
生活圏の内閉化、居場所のなさ、排除される不安やリスク
- 社会的自立に困難を有する若者の現状

2 若者の支援に関する現行の主な取組

若者の自立支援に関する主な取組を紹介

3 若者の支援の実態

- 若者支援のための制度や体制が手薄
支援が十分できていない領域があること、年齢による切れ目等
- 都民の理解をさらに深める必要
- 予防的な取組の重要性

第2 社会的自立に困難を有する若者に対する相談支援における課題

1 支援が必要であるが、支援の必要性を認識していない若者やその家族

- 相談を躊躇
- 若者や家族に対して支援に関する情報が十分届いていない

2 支援の必要性は認識しているが、どの機関に相談したら良いかわからない若者やその家族

- 複合的な課題を抱え、相談先が不明
- 相談しやすい環境の整備が不十分

3 相談したが、適切な支援機関へ繋がらない若者やその家族

- 対象年齢や支援内容により、支援の切れ目が生じている
- 相談の入口で躓くことが多い

4 予防的な取組の必要性

- 支援が必要にならないようにすることの重要性

第2章 支援の充実に向けた対応策

第1 支援が必要であるが、支援の必要性を認識していない若者やその家族への対応策

- ◆ 支援の必要性を感じていない若者や家族の意識を変えるような情報発信が必要
 - 要支援者が支援につながりやすくなる広報・啓発が重要
 - 相談しやすい環境の整備に向けた取組の充実

第2 支援の必要性は認識しているが、どの機関に相談したら良いか分からない若者やその家族への対応策

- ◆ 支援機関の情報を集約し活用できるようにすることが重要
 - 要支援者を受けとめ適切な支援につながるような体制の整備
 - 支援機関の情報を集約し必要な情報が検索できる仕組みが必要

第3 相談したが、適切な支援機関へ繋がらない若者やその家族への対応策

- ◆ 複合的な課題に対応するために、多機関のスクラム連携が重要
 - 複合的な問題を抱えた若者に対して、支援機関が連携して対応
 - 本人や家族の課題や状況を代弁し、伴走できる人材が必要

第4 予防的な取組

- ◆ 困難な状況に陥らないようにする取組が重要